

2-2 景観形成の理念

古くからの歴史をもつ本市の景観には、さまざまな過程を経て重層的に形成され、そのなり立ちにより多彩な特徴をもつ市街地の中に、アメニティ豊かなまちづくりの基礎となる自然資源、人々に受け継がれ地域のシンボルとなっている歴史・文化資源が共存・点在しているという特徴があります。

こうした多彩で質の高い景観資源を活かして、堺らしい都市魅力を生み出すために、地域の歴史や風土をしるす自然資源や歴史資源を活用したまちづくり、南部丘陵地をはじめとする良好な自然景観の保全、また中心市街地や各都市拠点における地域の個性を活かしたまちの顔の創出などをめざして、景観づくりに取り組んでいきます。

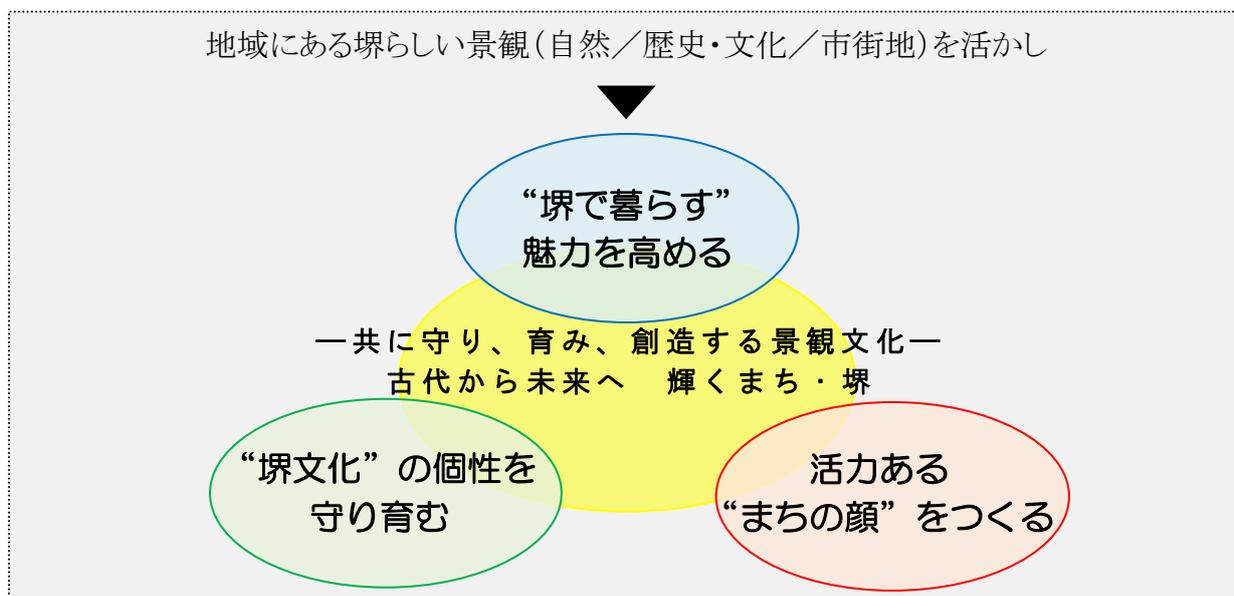
景観を通じたまちづくりへの取り組みが強く求められる現代において、古くから積み上げられてきた歴史の重層性と、多彩な市街地や自然がおこなす都市の特性を、未来に引き継ぐまちづくりの源泉として、良好な景観の形成を図ることをめざし、市民・事業者・行政のそれぞれが、共通の認識をもってこれに取り組むため、景観計画の理念を次のように設定します。

—共に守り、育み、創造する景観文化—

古代から未来へ 輝くまち・堺

自然環境や、長い歴史の中で培われてきた文化や伝統、それらを映し出す鏡が景観です。古代から中世、近世、近代へと、まちを拓いてきた先人たちが築き上げた堺の景観文化を共に守り育むとともに、現代に生きる私たちの知恵を活かして、これらの資源と調和した新たな魅力ある景観を創造することで、風格ある堺らしい都市の魅力を高め、次代に継承していくことにより、まちとともに人がいきいきと輝くまち・堺をめざします。

2-3 景観形成の基本方針



○ “塚で暮らす”魅力を高める

身近な地域で、市民が愛着をもてるような、落ち着いたきのある調和の取れた景観の形成と、それに伴う暮らしの質の向上をめざします。

家の前の植栽、建物や看板のひとつひとつが、まちの景観を構成する大きな要素になります。まちなかの緑や河川、ため池といった水辺など地域の身近な自然を活かすとともに、歴史・文化と調和したたずまいを生み出すことで、潤いある豊かな生活環境を育むことをめざします。

○ “塚文化”の個性を守り育む

南部丘陵などの自然環境や、仁徳天皇陵古墳をはじめとする百舌鳥古墳群、環濠都市、塚旧港、街道などの歴史的なまちなみ、大美野や浜寺などの緑豊かな住宅地など、塚独自の歴史・文化資源を、市民の共有財産として再認識し、本市の、そして地域のブランド、文化的シンボルとして保全・継承します。同時に、それらと調和し、またその要素を取り入れて、まちなみをつくりあげていくことで、個性を一層育んでいきます。

○ 活力ある“まちの顔”をつくる

風格ある塚らしい都市の魅力を高めるために、固有の資源を活かし、調和した魅力ある景観形成により、創造性あるまちの顔づくりをめざします。

都心における“都市イメージを代表する顔”づくりや、各地域の特性を活かした“愛着と誇りがもてるまちの顔”づくりにより、まちの活力を創出していきます。

2-4 堺の景観特性

(1) 自然景観特性

本市は大きく平野部と丘陵部からなり立っており、丘陵部から平野部にかけて流れる河川の流域にまちが形成され、農地が広がってきました。そして、丘陵部では、豊かな緑をたたえる山々が恵みをもたらすとともに、まちの境界が形づくられてきました。人々の暮らしは、地形・自然との関係に留意し、共生を図りながらなり立ってきたものであり、都市の骨格となる地形・自然は、景観の基礎にあたるものとして本市の姿を特徴づけています。

身近な自然に目を向けると、鎮守の森をはじめとして、各所に生活と結びついた自然が残っており、また、近年はアメニティ豊かなまちづくりへの関心や、環境問題への意識の高まりを背景に、市街地に残る身近な緑や水辺空間の大切さが再認識されています。

1) 緑の景観

- 南部丘陵は貴重な里山であり、シリブカガシなどの常緑高木やコナラなどの落葉樹林といった良好な樹林地、ため池や河川などを有し、酪農や水田・畑・樹園地など生産の場や暮らしの場として活用・維持されてきました。市民が身近にアクセスできる場所にあり、市街地周辺の緑として市民生活に潤いを与える南部丘陵は、本市の貴重な自然景観となっています。
- 農地は都市の貴重な自然景観です。丘陵部では四季の変化に富んだ棚田や樹林の風景が見られ、市街地周辺では水田や畑が段丘状に広がり、また平地ではため池とともに広々とした田園景観が見られます。
- 市街地では、公園などの公共施設における多彩な自然景観が特徴的で、ハナショウブ、カキツバタ、アジサイ、ツツジなどは名所となって親しまれています。大泉緑地、大仙公園をはじめとする緑の豊かな都市公園や、社寺の樹林、古樹・古木などが本市の歴史を感じさせます。
- 百舌鳥古墳群の墳丘や堤では、多様な樹種が四季折々の美しい景観を見せており、濠の水辺には野鳥が集まるなど、市街地の中であって安らぎを感じられる貴重な自然景観となっています。

2) 水辺景観

- 市内には、行基により築造されたものをはじめ、多数のため池があり、人々の暮らしに身近な自然景観となっています。丘陵地では静かに深い清水をたたえ、田園地域では野鳥の生息地となり、また、水辺の緑と一体となって豊かな自然環境を形成しているため池は、市街地では施



南部丘陵の里山



水田と段丘林



緑豊かな都市公園(大仙公園)



古墳群の樹林



地域活動による池の周囲の植栽

設と一体的にレクリエーションや学習の場として活かされ、地域住民や企業が保全に協力するなど、新しいまちづくり活動の場ともなっています。

- 河川景観としては、南部丘陵を水源とする石津川水系と大和川水系の2つが特徴的で、大和川では、浅香山公苑事業により、水と緑による親水空間の整備が進められています。河川は田園の中で小川の風景となり、また、緑と一体となった水辺の空間は市街地に潤いをもたらす貴重なオープンスペースとなっています。
- 大阪湾に面した臨海部には工場地帯が形成されてきましたが、近年は堺第7-3区共生の森の取組みが進み、基幹的広域防災拠点の整備などにより空間の広がりを活かした親水空間も生まれつつあります。



市街地のため池



河川と並木

【堺市の自然景観】

広がりのある臨海部の水際景観



河川の景観(大和川)



緑豊かな遊歩道



四季の表情を見せる公園

(2) 歴史・文化景観特性

地域で積み重ねられてきた人々の営みを今に伝える歴史・文化景観は、歴史のある寺社や古木、そこで行われる祭礼などを含め、人々に受け継がれ地域のアイデンティティともなっています。

そして、古代の古墳群、中世から近世の環濠都市、さらに近代の鉄道沿線を中心とした住宅地の形成など、古代から現代にいたる歴史の中で築かれてきた多様な歴史・文化資源が、重層的に市街地と共存していることが、本市の歴史・文化景観の特徴であり魅力でもあります。

その一方、歴史の足跡は市街化の過程で少しずつ失われ、日々の暮らしの中で意識されることも少なくなり、その姿を把握することが次第に難しくなっています。

1) 百舌鳥古墳群をはじめとする古代からの景観

- 古墳時代、百舌鳥に位置する台地では仁徳天皇陵古墳をはじめとする百舌鳥古墳群が築造され、現在も市街地の中にその雄大な姿を見ることができます。
- 丘陵地では、「日本書紀」に「茅渟^{ちぬのあがたすむら}県陶邑」と記された、焼き物のルーツである須恵器の一大生産地が形成されました。泉北ニュータウンの開発時には窯跡が多数出土し、登り窯の一つが大蓮公園に移築復元され、歴史の歩みを今に伝えています。
- 推古天皇の命でつくられた日本最古の官道といわれる竹内街道をはじめ、長尾街道や、平安時代につくられた熊野街道・西高野街道といった重要な街道が市域を通過し、交通の要衝として、港や街道沿いにまちが発展していきました。現在でも街道沿いの各所に、交流の歴史を伝えるまちなみを見ることができます。
- 行基は、奈良時代に堺を拠点に生活の苦しい人々の救済に取り組み、生涯で49の寺院を建て、灌漑などの社会事業を行いました。当時のため池が今も使われており、行基ゆかりの大野寺土塔、家原寺は地域のシンボルとなっています。
- 美原区の大保では、平安時代から室町時代にかけて、河内鋳物師(かわちいもじ)と呼ばれる鋳物をつくる技術者たちが集まり住んだことから、梵鐘や鍋・釜などを鋳造していた跡が発見されています。

2) 環濠都市として栄えた歴史を伝える中世及び近世からの景観

- 中世には自治都市として栄え、茶の湯をはじめとする町人文化が発展し、郊外では高林家などの豪農、櫻井神社や法道寺などの社寺が隆盛を極めました。近世初期には環濠都市が復興され、その町割が現在



仁徳天皇陵古墳



街道のまちなみ(竹内街道)



街道のまちなみ(西高野街道)



行基ゆかりの史跡(家原寺)



現存する伝統的な町家

も都市基盤として活かされています。

- 17世紀ごろの建築とされる山口家住宅や、鉄砲鍛冶屋敷の姿をとどめる井上家住宅は、現存する日本最古級の町家です。

3) 近代の市街化過程で形成された景観

- 黒山では、戦後、道路整備など市街化が進みましたが、一団の農地や寺院とともに、今も明治期の農村集落の面影が残っています。
- 道路の整備や鉄道の敷設などにより都市化が進んだ明治末から昭和初期、東京の田園調布とほぼ同時期に、本市には大美野住宅地や浜寺海浜保養地が開発されました。今も近代様式の住宅などが群となって残っており、当時の様子を今に伝える住宅地景観が見られます。
- 本市はまた工業都市としての側面を持ち、北旅籠町の包丁製造工場や、和さらしを干す風景、レンガ造りの工場といった産業建築などが特徴的な景観となっています。



堺環濠都市地域のまちなみ



環濠を活かした親水空間

【堺市の歴史・文化景観】



計画的に開発された住宅地 (大美野)



近代様式の邸宅(浜寺)



明治の工場建築を活かした公園

(3)市街地景観特性

1) なり立ちによる景観特性

本市の市街地景観は、そのなり立ちにより異なる特徴を有しており、それらが重なり合い地域特性となって市街地が形成されてきました。その市街地がどのような経緯で形成され今に至っているのか、そのなり立ちを理解することにより、市街地の特性をより正確に把握することができます。建築物などの計画にあたって、こうした市街地形成の過程を意識することが、地域ごとの特性を反映したより質の高い景観の創出につながります。

本市の市街地形成の経緯を大きく分類すると、以下のように把握することができます。

① 明治期以前に形成された景観

環濠都市を中心に街道沿いに農村集落が広がっていた時期です。古墳はもちろんのこと、神社・寺院・古木といった歴史的な資源の大半はこの時期までに形成されており、地域の人々の努力により現在まで受け継がれていますが、時間の経過とともに次第に消失してしまう事例も増えています。また、街道沿いや農村の集落に今も残る木造の家屋が、ヒューマンスケールの落ち着いた景観を保っています。

② 戦前(昭和前期)までに形成された景観

明治時代には鉄道の敷設に伴って沿線の市街化が進み、市街地が外縁部に拡大し始めました。鉄道沿線を中心に計画的な住宅地や商業地が形成され、大阪大都市圏の住宅都市として大きな役割を担ってきました。

大正から昭和にかけて、大浜や浜寺では白砂青松とうたわれた景観を活かして海浜リゾートが開発されました。また、昭和のはじめには、大美野などで当時の理想を取り入れた郊外住宅地の計画的な開発が進みました。

こうした景観の名残は現在でも市内各所にうかがうことができ、良好な雰囲気を持することで、本市の住宅市街地のイメージを先導しています。

③ 戦後～高度経済成長期(昭和中・後期)に形成された景観

第二次世界大戦の大空襲により堺市の中心部は大きな被害を受けましたが、その後復興へと歩みを進め、急激な成長・発展を遂げました。

環濠都市の周辺から郊外にかけて土地区画整理事業が活発に行われ、今日の整然とした既成市街地の基盤が整えられました。

工業都市としての発展をめざす中、公的住宅団地の整備が各地で



堺環濠都市地域のまちなみ



郊外住宅地のまちなみ(大美野)



郊外住宅地のまちなみ(浜寺)



公的住宅団地(新金岡)



幹線道路の景観
(フェニックス通り)

進められるとともに、臨海部では公有水面の埋め立てや堺泉北港の整備など、重化学工業地帯が造成されました。また、広域幹線道路も整備され、大規模な計画的住宅地である泉北ニュータウンがまちびらきするなど、市街地がさらに拡大し、現在の都市の骨格が形成されました。

④ それ以降に形成された景観

モータリゼーションの進展により、市内各地や幹線道路沿道での市街化が一層進行するとともに、建築物の高層化が進み、堺東駅、堺駅などにおいて駅前などでの高度利用が進められました。あわせて、時間が経過し老朽化した市街地や臨海部を中心に建築物の更新が進められ、都市の姿が短期間に大きく変貌しつつあり、その結果として、堺市駅や北野田駅、鳳駅をはじめとした地域の拠点が形成され、臨海部においては複合商業施設や J-GREEN(グリーン)堺(サッカー・ナショナルトレーニングセンター)、環境先進型の工場などが立地するなど、多様な市街地景観が生まれています。



泉北ニュータウン



臨海部



堺東駅前



堺市駅前



北野田駅前